

大楠公だいなんこう

徳川景山とくがわかげいざん

豹ひょうは死しして皮かわも留とどをあに豈ごう偶然ぜんならんや

湊川みなとがわの遺跡いせき水みづ天てんに連つらなる

人生じんせい限り有あり名なは尽つくる無なし

楠氏なんしの精忠せいちゅう万ばん古こに伝つとう

【作者】徳川齊昭(一八〇〇〜一八六〇年)(享和元年〜安政七年) 幕末の大名。江戸に生まれた。景山(けいざん)・潜龍閣(せんりゅうかく)と号した。一八二九年、兄の水戸藩主斉脩(なりのぶ)の死に伴い、藤田東湖ら藩政改革派の推戴(すいたい)により藩主となった。従来の兵法に西洋式軍備、軍事学を導入。藩校弘道館を設立し、社寺の整理にもあたるが、のち門閥派と対立、一八四四年幕命により隠居を命ぜられる。一八六〇年六十一歳にて没す。

【語釈】*大楠公：楠木正成の敬称 なお 長男正行(まさつら)を小楠公という。 *豹死留皮：『五代詩』に「豹は死して皮を留む人は死して名を留む」とあり 「豹でさえ死後に美しい毛皮を残す まして人は死後に名(立派な名声)を残さねばならない」の意

*湊川遺跡：大楠公とその一族が足利尊氏の軍に兵庫湊川で敗れ 戦死した跡。 *精忠：少しも私心のない純粋な心

【通釈】豹は死して皮を留め、人は死して名を留めるといふ諺があるが、人が名声を後世に残すのは決して偶然ではなく、必ずそうなるべき原因がある。南朝の忠臣大楠公が戦死を遂げた湊川の遺跡に来てみれば、川の流れが天に連なつて今も昔も変わりが無い。人の一生には限りがあるが、立派な人物の名声は、永遠に尽きることが無い。大楠公のように純粋な忠義の精神は、いついつまでも伝わつて、忘れ去られることが無いのである。